研究機関：広島大学

研究課題名	リンパ節転移・遠隔転移を有さない原発性肺腺癌切除症例における、EGFR 変異・KRAS 変異・ALK 融合発現の予後因子としての意義と組織学的特徴との関連性についての研究
研究責任者名	原爆放射線医科学研究所 放射線災害医療研究センター 腫瘍外科　教授　岡田　守人
研究期間	2022 年 1 月 13 日(倫理委員会承認後）～　2022 年 12 月 31 日

対象者

2007 年 1 月から 2019 年 12 月の間に、広島大学病院呼吸器外科でリンパ節や遠隔臓器に転移を有さない原発性肺腺癌に対して手術による治療を受けられた患者さん。

意義・目的

肺腺癌は原発性肺癌の中で最も種類の多い肺癌で、手術後の再発のしやすさは腫瘍の大きさや腺癌を構成する成分の比率によって異なってきます。また、特定の遺伝子変異の有無も再発しやすさに関係するとされており、それらの遺伝子変異の有無は再発後の治療方針にも関わってきます。

今研究では再発しやすさに関わり得る腫瘍の大きさ、病理組織の構成成分、遺伝子変異の有無がどのように関連し、どういった方法がより再発のしやすさを予測に適するかを検討します。

方法

この研究は診療録（カルテ）情報と手術で切除された標本を調査に用います。

カルテから用いる内容は年齢、性別、手術の種類、病期、再発の有無、切除標本からは細胞の形や周囲組織への癌細胞の浸潤の有無といった顕微鏡検査での腫瘍の特徴を調べます。（個人を特定可能な情報は解析に用いません）

試料・情報の管理責任者

原爆放射線医科学研究所 放射線災害医療研究センター 腫瘍外科　教授　岡田　守人

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありません[redacted]ませんのでご安心ください。また得られた顕微鏡検査の特徴は貴重な情報として、将来別の研究で使用させていただく場合がございます。その場合は改めて倫理審査を受け承認を